

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670200510
法人名	医療法人 厚徳会
事業所名	グループホームふるさとの家「すずらん」
所在地	鹿児島県薩摩川内市勝目町5215-5 (電話) 0996-27-6060
自己評価作成日	平成31年3月29日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成31年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の高齢化・介護度の上昇に伴い、生活面に影響を及ぼす問題をそれぞれ把握し、身体面・精神面の細かい部分まで配慮しながら援助するよう努めている。

ご家族が面会に来られた際には近況報告や相談を行い、日頃からコミュニケーションを図るようにしており、ご本人やご家族の望みを理解できるよう努め、その望みを實編できるような働きかけを心がけ、関係づくりに努めている。

地域との関わりを大切に、ボランティアサークルの活動の定期的な受け入れや、看介護を担う人材育成の一端をになうため、看護大学や介護専門課程の実習の受け入れを積極的に行っている。

また、医療連携体制の下で、利用者様の日々の健康管理(バイタルサインや食事・排泄チェック・睡眠状況など)について医師・看護師・薬剤師・理学療法士・管理栄養士といったそれぞれの専門職に相談・協力をもらいながら取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、市郊外の国道3号線から約1km入った閑静な農村地帯の一角に、法人母体の医療機関や同法人の小規模多機能ホーム、居宅介護事業所、高齢者住宅等と共に設置されており、周囲は住宅や商店、コンビニ、農地等が混在している。法人の全事業所は運営や情報の共有と密な連携体制で、職員の研修、防災訓練の開催等を合同で取り組み、また管理栄養士による食事管理や緊急時・終末期の対応の協力体制も構築している。利用者の健康管理が徹底され協力医療機関との連携も構築されて、利用者及び家族の信頼と安心に繋がっている。

ホームは地域密着型事業所として、地域との協力関係や日常的な交流が図られる関係を構築しており、散歩や友人知人の来訪、買い物、地域行事への参加、ボランティアの受け入れ等に積極的に取り組み、ホーム主催のイベントや災害訓練には住民の参加が得られている。また、認知症サポーター養成講座も開催し、住民から寄せられる相談等に専門性を活かして適切に助言している。

管理者及び職員は理念に沿って、利用者の誇りや尊厳を大切にしながら思いの把握に努め、利用者主体の生きがいのある暮らしの支援に取り組んでいる。利用者や家族からの意見や要望に対しては、職員全体で協議して改善を図るなど、より良いサービスの実践に日々努めており、利用者や家族との信頼関係が構築されている。

管理者は、日頃から職員と気軽に意見が言い合える雰囲気づくりに努め、意見や要望等を把握して運営やサービスの質の向上に取り組んでいる。職員のスキルアップを図る研修の実施や日頃のケアに対する助言・指導を積極的に行い、外部研修の受講には法人による経費の助成制度もあり、有給休暇取得に配慮するなど、職員の意欲向上及び働きやすい職場環境の整備に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり 楽しく 穏やかに」をユニット理念として掲げ、朝礼後の復唱も行っている。常に理念を意識しケアに努めている。	利用者の尊厳やその人らしさを大切に生活への支援をユニット毎の理念に掲げ、玄関やリビングに掲示すると共に職員の名札の裏面にも明記し、申し送り時の唱和やミーティングで研修及びケアの振り返り等を行って意義の共有と理念に沿ったケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアグループの活動を積極的に受け入れている。地域自治会の夏祭りや敬老会の参加、地区内の保育園の園児との交流等、積極的に行っている。	自治会に加入し地域の情報を把握して、保育所の運動会の見学やハロウィンでの交流、その他地域の行事に参加しており、ホームの敬老会には剣舞やフラダンス等多くのボランティアによる慰問が得られている。日頃の散歩時の会話や友人・知人の来訪、農産物の差し入れ、施設見学や介護実習の受け入れ、芋ほりの招待を受ける等、日常的に円滑な交流が図られている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議内にて、認知症ケアについての発信や、認知症に対する質問に対して、事例や経験を踏まえた上で出来る限りお答えし、理解をいただけるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にていただいたご意見や提案を、事業所内で運営に反映させている。(声掛けや接遇について等)。事業所の現場スタッフも参加し、地域との連携について学びきっかけとなっている。	利用者、家族、自治会長、交番、消防署、市高齢介護福祉課職員等が参加して定期的に開催している。ホームや利用者の状況、ヒヤリハット事例等を報告し、併せて認知症ケアや防災に関する意見交換や施設現場の見学を行って、運営や利用者の生活状況の理解を得ている。会議の内容を職員は議事録で共有し、協議して業務の改善やサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政の担当者へ、必要に応じて事業所の報告等行っており、運営会議への参加も積極的にいただいている。 いつもの確なアドバイスや意見をいただいている。	市担当職員には、日常的に介護保険や各種制度の手続き、利用者のケアや施設運営に関する相談等を行い、助言・指導をもらうなど協力関係を築いている。市やグループホーム連絡協議会主催の会合や研修会に積極的に参加して、行政や他施設職員との意見交換に努め、業務やサービスの改善に繋げている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の見える所に身体拘束排除宣言を掲示している。ミーティングや申し送り等で、支援の方法によっては拘束になってしまうことを常々確認しながら、認知症ケアについても話し合い身体拘束をしないケアを確認し実践している。 部門内研修を実施している。	身体拘束適正化委員会を年6回開催し、事例研修や意見交換等の実施で認識を深めており、「身体拘束排除宣言」も行って玄関に掲示している。不適切な言葉づかいやケアに対しては職員間で指摘し合うなど、日頃から改善に努めている。昼間は施錠は行なわず利用者の見守りや対話、寄り添いに努めて思いを把握し、尊厳を大切にされた拘束のないケアの実践に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルに基づいて勉強会を行い、虐待についての理解を深め、相手が嫌だと思ふことは、虐待につながっていくことを意識し、職員同士で気づき、注意し合える環境作りを目指している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在入居者に制度を利用している方はいない。 研修会等の機会があれば、積極的に参加し、いつでも受け入れる体制をとっておきたいと考えている。権利擁護については、入居者様の様々な権利について学ぶ機会を設けていきたい。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に、認知症の症状で困っていること、不安に感じている事を聞き取りながら、今後起こりうるリスク、事故発生時や重度化(看取り期)の対応についてや、医療連携体制等、丁寧に説明し、しっかりと理解していただいた上で契約の同意をいただく様にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様が、どういう思いや望みをもっておられるかを日頃の会話や支援の中から読み取り、観察している。ご家族の意見もご意見箱の設置や、日頃の面会時、担当者会議の際にお伺いするなどして、事業運営に反映出来るよう心掛けている。	日頃から見守りや寄り添いに心がけて、利用者の想いを会話や独自のサイン等で理解に努めている。家族からの意見は来訪時や運営推進会議、家族会、意見箱等で把握しており、出された意見は申し送りや介護日誌で共有し、全員で協議して運営やサービスの向上に取り組んでいる。家族にも内容や対応状況を報告して理解を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回、ミーティングを開催し、運営についても職員間より意見をもらうなどし、議事録や申し送り等で報告している。管理者は携帯等のメールの活用などしながら、スタッフが自由に相談できる体制をとっている。	管理者は日頃から職員との対話に努め、日々のケアの中や申し送り、ミーティング等で意見や要望を把握し、必要に応じて個人面談も実施して悩み等も聴取している。出された要望等は協議して改善を図り、勤務シフトや外部研修の出席には可能な限り職員の意向を反映させている。スキルアップを図るため研修の実施や資格取得へのバックアップに努め、有給休暇取得など福利厚生にも配慮して、意欲の向上と働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は資格手当として給与に反映している。スタッフの働き方についての意向も確認しながら、職場内・法人内で働きやすい環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スタッフのレベルに応じた研修に参加できるよう、業務調整等行い積極的に派遣したいと考えている。研修参加スタッフによる研修報告をミーティングで行い、参加していないスタッフとも共有できるようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会主催の研修に参加する中で、他事業所との交流を図り、気付きやアドバイスなど、意見交換することで、より良い支援に繋がるよう取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった時は、必ずご本人に面会し、心身の状態やご本人の思いや困っていることに着目し、ご本人が安心してくださるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用相談、入居の際など、ご家族の思いや不安な事を聞かせていただき、不安なく入居できるよう、困っている事を解決できるように支援しながら、安心していただけるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、ご本人の「できること」と「支援の必要なこと」を見極めたうえで、ご家族の要望も伺いながら、ご本人に必要な支援を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の心身の状態を考慮しながら、できることは積極的に活動を担っていただき、入居者様・スタッフ共に支え合うことで、誰かのために生きること、人のために役に立つ喜びを感じてもらえるよう、日常的に心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が体調の良い時の外出をお願いしたり、一時帰宅など共に過ごす時間を持つことをお勧めしている。家族交流等を計画し、ご本人とご家族、スタッフとの交流の機会を積極的に設け、良好な関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の友人・知人、地域近所の方の面会も歓迎している。面会の折にはゆっくりと過ごしていただけるよう配慮し、また訪ねていただけるよう声掛けや、いつでも来れるような環境作りに努めている。	利用者の生活歴や家庭環境、社会性等を把握して、馴染みに関する情報を共有している。家族や友人の来訪時にはゆっくり交流できるよう雰囲気づくりに配慮し、本人の希望に沿って買い物や一時帰宅、ドライブ、外食、墓参等を家族と連携して支援している。遠方の家族には、写真やコメントを添えたお便りの送付や電話で近況を伝え、また、手紙等の取り次ぎも行なって関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が良好な関係を作れるよう、スタッフが調整役を担い支援している。入居者様間のトラブルも、共同生活をしていれば起こりうることで、その際には良好に解決できるよう早い介入と、関係の調整を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人とご家族の退居後の相談にはいつでも応じる体制をとっており。退居されたご家族との交流も続いている。畑に招待して下さったり、季節のいただきものをしたり、介護に関する相談をお受けしたりすることもあり、良好な関係の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご本人やご家族から聞き取るようにしている。その後の支援の中で、ご本人の意向を確認しながら思いに沿った支援に努めている。意思表示の困難な方であっても、今までの生き方や思いを鑑み、どのように希望されているのか慮る努力をしている。	日頃から利用者の思いや意向の把握に努め、生きがいのある、その人らしい暮らしの支援に家族と連携して取り組んでいる。全体活動に加え、利用者の意向を汲みとって趣味（DVDや音楽の視聴、ぬり絵、新聞読み他）や家事（洗濯物たたみ、食後の片付け）への取り組みを、心身の状況に配慮しながら個別の支援にも取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族より、わかる範囲での過去からの生き方や、入所に至るまでの経緯や葛藤をお聞きし、その思いを職員間で共有し、ご本人を心から理解し支援に反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様が、自分らしく暮らせるように、ご本人の意向、思い、ご家族の「こんな風に暮らしてもらいたい」というような要望を伺い、計画作成担当者が中心となり支援の計画作成を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の実施状況、支援の効果などを評価するとともに、スタッフが日々記録するご利用者の思いや状態の変化、ご家族の意向など必要に応じて見直しを行っている。	本人・家族の意向や主治医の意見を基に担当者会議やユニットミーティングを開催し、残存機能に配慮した利用者主体のきめ細かな介護計画を作成している。ケアの状況は「介護日誌」「バイタルチェック」等に記録して共有を図っており、定期的な見直しに加え状況の変動時には計画を修正する等、実状に即した計画を作成して改善に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子については、支援経過に残し、個人ごとにケース記録に詳しく記入している。月末には担当者による評価を行い、ご本人の状態の確認を行っている。</p>			
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>医療機関の受診の付添い、買い物支援などは、ご家族と相談しながら、事業所が変わって行くこともある。</p>			
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>入居者様が安心して地域での暮らしが継続できるよう、行政、自治会、民生委員、消防、包括などの多様な方に運営推進会議にご参加いただき、地域との協働の一環としている。その中でご意見をいただいたり、事業所から要望したりしながら、地域資源を活用する取り組みをしている。</p>			
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所の協力医のほか、以前からのかかりつけ医を受診できるようご家族と協力し、必要であれば通院介助等を行う。必要に応じて複数の医療機関との協力体制をお願いしている。</p>	<p>利用者の病歴等を把握し、本人・家族が希望する医療機関での受療を支援しており、協力医療機関による月1～2回の訪問診療や訪問看護による健康管理も実施している。他科受診は家族と連携して同行し、隣接の協力医療機関との医療連携も築かれて、利用者及び家族の安心に繋がっている。利用者の病状や受診結果は家族にも報告するなど密に連携を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師と連携し、毎朝の体調報告、特異時の対応の指示など行っている。夜間緊急時には待機看護師により応急処置が行なえる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院による認知症の進行などのダメージを最小限にするため、入院先Dr. や担当ワーカーと話し合う機会を持ち、事業所内で対応可能な状態へ回復したら、早急に退院できるよう体制をとり、働きかかっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、その時期で伺える範囲のご本人とご家族の死生観を含めた終末期の過ごし方について聞き取り、同意をいただいている。終末期に対する対応方針を定め、終末期と判断された時には、ご本人の意向を大前提に、ご家族・Dr. 看護師を交えて検討を行っている。また、終末期の希望に関しては気持ちの揺れ、思いの変化も十分にあり、その時の意向に沿った支援ができるように努めている。	重度化や終末期のケアに対する指針を整備し、利用開始時に本人や家族に説明して同意を得ている。重度化した時点で主治医より病状が伝えられ、家族や関係者は繰り返し協議しながら可能な限り希望に沿った支援をチーム体制で取り組んでおり、年間数件の看取りを実施している。ミーティングで終末期対応の研修を実施してスキルアップや職員の不安感の軽減を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時にはすぐに連携看護師へ連絡し、指示を仰ぐようにしている。夜間緊急時の対応の仕方について全職員が見ることができるよう事務所内に掲示している。外部の救急対応訓練に参加した職員はいるが、部門内での定期的な救命講習等は実施していない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防訓練を実施する際には、事前に地域自治会や、周辺のコンビニ等の事業者 近隣住民に案内を回覧し参加を呼び掛けている。通常は火災防火訓練が中心であるが、今後はさまざまな災害を想定した訓練を実施していきたいと防火管理者と検討している。</p>	<p>災害時の対応マニュアルを整備し、年2回夜間を含む火災訓練を隣接の小規模多機能ホームや高齢者住宅と合同で実施している。高齢者住宅を避難場所としており、訓練には地域住民や家族の協力も得られている。日頃から災害報道をもとに意見交換し避難経路を確認する等、防災への認識を共有し、消防設備は定期的に点検している。スプリンクラーや火災通報装置を設置し、懐中電灯、ラジオ等の整備や飲料水や食料品、介護用品を備蓄している。原子力発電所の事故を想定した避難訓練の実施も検討している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わり方については、職員一人一人が入居者様の尊厳を大切にしたい対応ができるよう、ミーティングや外部・内部研修を通して考える機会を設けるようにしている。	利用者の尊厳やプライバシー確保についてはマニュアルを整備し、ミーティングで研修の実施や意見交換を行って適切なケアの実践に取り組んでいる。更衣や排泄、入浴のケアの際は人格や羞恥心に特に配慮しており、居室やトイレ、浴室はプライバシーを確保した構造になっている。情報誌への掲載の可否は入所時に確認しておりケアに関する帳票類も適切に取り扱っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決定を要す場面において、複数の選択肢の提示、それぞれを選択したメリット・デメリットの説明を丁寧に行い、入居者様が自己決定できる支援、その自己決定がよりよい決定になるような働きかけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日のスケジュールはあるが、入居者様の希望や思いに合わせ、スケジュール通りの生活を強要しないよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	着替えはできる限り入居者様と一緒にいき、衣類の選択は入居者様に決定していただき、季節に合うもの、体調に合うものの部分についてはスタッフよりアドバイスさせてもらう。散髪は近所の美容室に向いたり、事業所内へ来ていただいたり、入居者様の意向に合わせて対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平成24年度より食事について業者からの提供となり(法人一括)日常的な調理は行っていない。季節に合わせた干し柿作りやお菓子作り、配膳・下膳やテーブル拭き、お盆拭きのお手伝いなど、出来ることを一緒にお願している。	疾病に伴う食事制限や形態、栄養バランス、嗜好等に配慮し、法人の管理栄養士の助言を得ながらメニューを作成して業者に調理委託している。季節の行事食や手作りのおやつ、家族との会食、外食など、食事が楽しみとなるよう工夫しており、利用者は談笑しながら食事している。食事や水分の摂取状況を把握し、口腔体操や食後のケアもプランに沿って支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量、定期検査や毎月の体重測定をチェックし、大まかな栄養状態を把握できるようにしている。連携看護師や法人内の管理栄養士に相談し、専門的アドバイスをもらい対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、見守り、義歯の清掃など、一人ひとりの出来る力に応じて口腔ケアを支援している。歯科受診についてはご本人・ご家族の意向を踏まえながら、通院や訪問歯科診療の対応をしている。食事前の口腔体操は賑やかに楽しむようになるよう工夫している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、それぞれの排泄パターンを把握した上でトイレ誘導を行っている。排泄は自然な行為であることを理解し、ご本人が行きたいときに「行ける」ことを支援するように努めている。	各利用者の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援している。利用者の身体状況に合わせた介護用品やケアの方法を、介護計画に反映させて改善に取り組んでおり、運動や水分補給による便秘予防にも努めている。トイレ誘導や衣服交換時のケアや言葉づかいには、利用者の羞恥心やプライバシーに特に配慮して取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分摂取、体操や散歩など適度な運動も取り入れて、事前排便を促すよう努めている。排便状況をチェックし、看護師と連携を取り、便秘にならないような対応を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	それぞれの入浴介助の必要性、必要量を検討しながら、午前・午後に分けて入浴をお願いしている。入浴の頻度はそれぞれで、ご本人の希望や習慣に合わせた支援を行っている。	週2～3回の入浴を利用者の心身の状態に配慮しながら支援している。足浴、清拭の対応や好みの温度、時間などを柔軟に、ゆっくりと気持ち良く楽しめるように配慮し、入浴後は水分の補給や皮膚疾患の処置を支援している。入浴を渋る利用者には無理強いないで時間や順番、声掛け等を工夫して、意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を増やし、生活リズムを整えていただくために、希望や思いに沿った活動を提供できるように心掛けている。お一人お一人の体調や希望を考慮して、ゆっくり休息ができる支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類や容量が変更されたり、ご本人の状態に変化がみられる時は、より詳細な記録をとるようにし、看護師や協力医療機関との連携を図れるようにしている。薬の管理についても、入居者様による誤飲等のないように管理に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの入居者様の趣味、嗜好、得意なことや好きなことが楽しめるような自由な環境作りと、ドライブや外出など多彩な楽しみの提供を行うなどの支援に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のコンビニやスーパーへの買い物や、美容室への外出などの支援をしている。自宅への帰宅やお墓参りなど、ご要望があれば協力できることをお手伝いしている。	利用者の外出に対する意向を日頃の支援の中で把握し、健康状態や天候に配慮しながら、園周辺の散歩やドライブ、買い物、一時帰宅、墓参り等の外出を家族と協力して取り組んでいる。初詣や季節の花見、夏祭り、運動会の見学など、ホーム全体での外出も可能な限り計画的に実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お手元には少額のお金の所持を持っている入居者様もいるが、大きな金銭管理は事業所がお預かりして管理しており、外出の際の会計時には、ご本人が支払いを行えるような支援をしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望のお宅へ電話することや、事業所への電話の取次ぎなど、ご希望時に対応している。手紙や郵便物はご本人にお渡しし、必要があれば代読をして確認いただいている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅に近い環境、家庭にいるような雰囲気を感じていただけるよう、厨房の様子が見えるような間取りやリビング内にはソファや家庭的な食器棚を配置したり、音楽や光、中庭の活用など、居心地の良い空間づくりを日頃から意識している。</p>	<p>ホームはバリアフリーの構造で、廊下やリビング等は余裕のあるスペースが確保されている。随所に利用者の作品や絵画等が飾られ、清掃や空調、臭気にも十分配慮して和やかで清潔感のある空間となっている。リビングの一角に畳部屋があり、テーブルセットやテレビ、ソファ等の家具が利便性に配慮して備えられ、また、中庭には多種の草花も植えられて、利用者は好みの場所で四季を感じながら平穏に過ごしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関や中庭、廊下のところどころに椅子を配置し、お好きなどころで、お一人で休める場所を作っている。</p> <p>時にはご利用者との語らいの場にもなっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅と変わらない居心地の中で過ごしていただくために、入居の際に使い慣れた家具や食器、ご家族の写真など、ご自由に持参していただき、居室内を自宅に近い環境づくりをお願いしている。	余裕ある居室はフローリングに腰高窓の仕様で、ベッド、エアコン、洗面台、クローゼット、加湿器が備えてあり、利用者の意向を確認しながら整理整頓の支援に努めている。利用者は家庭同様に落ち着いて過ごせるように、家族写真や寝具、テレビ、仏壇、時計等を自由に持ち込み、自身の作品や長寿表彰の額等も飾って、その人らしい和やかな雰囲気のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の心身の状態に合わせて、居室内の環境が適しているかを検討し、必要に応じて家具の配置換えを行うことがある。(ご本人・ご家族に同意をいただいた上で)入居者様、スタッフの移動導線上の安全確保、手すりや車椅子など必要な道具の配置など、常に安全を意識した環境作りを行っている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない